

特定非営利活動法人 山県郷の和 定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人山県郷の和という。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を岐阜県山県市谷合2496番地2に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、地域における過疎化の抑止、空き家の利活用、子どもへの自然教育の推進、ひとり親家庭への支援等を通じて、地域社会の持続的な発展と住民福祉の向上に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、その目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 社会教育の推進を図る活動
- (2) まちづくりの推進を図る活動
- (3) 観光の振興を図る活動
- (4) 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
- (5) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (6) 環境の保全を図る活動
- (7) 地域安全活動
- (8) 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
- (9) 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
- (10) 子どもの健全育成を図る活動
- (11) 経済活動の活性化を図る活動
- (12) 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- (13) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

(事業)

第5条 この法人は、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 特定非営利活動に係る事業
 - ① 空き家・空き地の利活用を通じた地域資源の活用、景観の保全、安全・防犯環境の整備、及び移住促進に関する事業
 - ② 住宅宿泊事業法に基づく民泊事業の運営・支援、並びに民泊施設の企画・管理・利用促進に関する事業
 - ③ 地域の観光資源・文化・自然環境を活かした体験型交流及び地域イベントの企画・運営に関する事業
 - ④ 行政・企業・金融機関等との連携による地域経済の活性化及び地域活動の推進に関する事業
 - ⑤ 地域住民及び移住者を対象としたスポーツ・交流活動の推進に関する事業
 - ⑥ ひとり親家庭等の生活安定を図るための相談・研修・就労支援に関する事業

第3章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体
- (2) 賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した個人及び団体

(入会)

第7条 会員の入会については、特に条件を定めない。

- 2 会員として入会しようとする者は、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとし、理事長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 3 理事長は、前項の者の入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して1年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款等に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

(拠出金品の不返還)

第12条 既納の入会金、会費及びその他の拠出金品は、返還しない。

第4章 役員及び職員

(種別及び定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

(1) 理事 3人以上6人以下

(2) 監事 1人

2 理事のうち、1人を理事長、1人を副理事長とする。

(選任等)

第14条 理事及び監事は、総会において選任する。

2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。

3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第15条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

2 理事長以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。

3 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは、その職務を代行する。

4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

5 監事は、次に掲げる職務を行う。

(1) 理事の業務執行の状況を監査すること。

(2) この法人の財産の状況を監査すること。

(3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

(4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。

(5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第16条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。

3 補欠のため、又は増員によって就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

5 第1項の規定にかかわらず、任期満了前に、就任後2事業年度が終了した後の総会において後任の役員が選任された場合には、当該総会が終結するまでを任期とする。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 職務の遂行に堪えない状況にあると認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

第19条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
- 3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(職員)

第20条 この法人に、事務局長その他の職員を置く。

- 2 職員は、理事長が任免する。

第5章 総会

(種別)

第21条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第22条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第23条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業計画及び予算
- (5) 事業報告及び決算
- (6) 役員の選任又は解任、職務及び報酬
- (7) 入会金及び会費の額
- (8) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第49条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (9) 事務局の組織及び運営
- (10) その他運営に関する重要事項

(開催)

第24条 通常総会は、毎事業年度1回開催する。

- 2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第5項第4号の規定により、監事から招集があったとき。

(招集)

第25条 総会は、第24条第2項第3号の場合を除き、理事長が招集する。

2 理事長は、第24条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面または電磁的方法をもって、少なくとも会日の5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第26条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第27条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第28条 総会における議決事項は、第25条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 理事又は正会員が総会の目的である事項について提案した場合において、正会員の全員が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の総会の決議があったものとみなす。

(表決権等)

第29条 各正会員の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面若しくは電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、第27条、第28条第2項、第30条第1項第2号及び第50条の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第30条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 正会員総数及び出席者数(書面若しくは電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。)

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名、押印しなければならない。

3 前2項の規定にかかわらず、正会員全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 総会の決議があったものとみなされた事項の内容

(2) 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称

(3) 総会の決議があったものとみなされた日

(4) 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

第6章 理事会

(構成)

第31条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第32条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第33条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の3分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第5項第5号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第34条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、第33条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面または電磁的方法をもって、少なくとも会日の5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第35条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(議決)

第36条 理事会における議決事項は、第34条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第37条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面または電磁的方法をもって表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、第36条第2項及び第38条第1項第2号の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第38条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面又は電磁的方法による表決者にあつては、その旨を付記すること。）
- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名、押印しなければならない。

第7章 資産及び会計

(資産の構成)

第39条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立の時の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄附金品
- (4) 財産から生じる収益
- (5) 事業に伴う収益
- (6) その他の収益

(資産の区分)

第40条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産のみとする。

(資産の管理)

第41条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(会計の原則)

第42条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

(会計の区分)

第43条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業に関する会計のみとする。

(事業計画及び予算)

第44条 この法人の事業計画及びこれに伴う活動予算は、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第45条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予算の追加及び更正)

第46条 予算議決後にやむを得ない事由が生じたときは、理事会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第47条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第48条 この法人の事業年度は、毎年 11月 1日に始まり翌年 10月 31日に終わる。

(臨時の措置)

第49条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第8章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第50条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する以下の事項を変更する場合、所轄庁の認証を得なければならない。

- (1) 目的
- (2) 名称
- (3) その行う特定非営利活動の種類及び当該特定非営利活動に係る事業の種類
- (4) 主たる事務所及びその他の事務所の所在地（所轄庁変更を伴うものに限る。）
- (5) 社員の資格の得喪に関する事項
- (6) 役員に関する事項（役員の定数に関する事項を除く。）
- (7) 会議に関する事項
- (8) その他の事業を行う場合における、その種類その他当該その他の事業に関する事項
- (9) 解散に関する事項（残余財産の帰属すべき者に係るものに限る。）
- (10) 定款の変更に関する事項

(解散)

第51条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産手続開始の決定
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない。

3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第52条 この法人が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうちから総会の議決において決定した者に譲渡するものとする。

(合併)

第53条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第9章 公告の方法

(公告の方法)

第54条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、この法人の主たる事務所の掲示場に掲示して行う。

第10章 雑則

(細則)

第55条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附 則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

理事長	菅原 華恋
副理事長	土川 幸彦
理事	加藤 慶
- 3 この法人の設立当初の役員の任期は、第16条第1項の規定にかかわらず、成立の日から令和8年12月31日までとする。
- 4 この法人の設立当初の事業計画及び活動予算は、第44条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。
- 5 この法人の設立当初の事業年度は、第48条の規定にかかわらず、成立の日から令和8年10月31日までとする。
- 6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

(1) 正会員入会金	30,000円
正会員会費	30,000円（1年間分）
(2) 賛助会員入会金	30,000円
賛助会員会費	30,000円（1年間分）

役員名簿

特定非営利活動法人 山県郷の和

役職名	氏名	住所又は居所	報酬の有無
理事長	菅原 華恋		無
副理事長	土川 幸彦		無
理事	加藤 慶		無
監事	吉田 敦		無

(備考)

- 1 「氏名」、「住所又は居所」、「報酬の有無」は、全ての役員について記載する。
- 2 「氏名」、「住所又は居所」の欄には、住民票等によって証された氏名、住所又は居所を記載する。
- 3 「報酬の有無」の欄には、定款の定めに従い報酬を受ける役員には「有」、報酬を受けない役員には「無」を記入する。
- 4 役員総数に対する報酬を受ける役員数（「報酬の有無」欄の「有」の数）の割合は、3分の1以下でなければならない（法第2条第2項第1号ロ）。

設 立 趣 旨 書

1 趣 旨

近年、地方における人口減少や高齢化、空き家の増加、子育て環境の希薄化など、地域社会が抱える課題は深刻さを増しています。岐阜県山県市においても、過疎化や空き家の放置、ひとり親家庭の孤立などが顕在化しており、地域の持続的な発展と住民福祉の向上が急務となっています。

本法人は、これらの課題に対して、空き家の利活用による移住促進、自然体験を通じた子どもへの教育支援、ひとり親家庭への就労支援などを通じて、地域資源を活かした社会貢献活動を展開します。これらの事業は、特定の個人や団体に限らず、広く地域住民や移住希望者、子育て世帯など不特定多数の人々の利益に資するものであり、公益性の高い活動です。

これまで任意団体として活動を進めてきましたが、事業の拡大に伴い、契約の締結や助成金の申請、社会的信用の確保が必要となり、法人格の取得が不可欠となりました。営利を目的とせず、地域に根ざした活動を継続的に行うため、特定非営利活動法人としての設立を決意しました。

2 申請に至るまでの経過

本法人の設立発起人は、地域の空き家問題や子育て支援の必要性を感じ、2024年より任意団体として活動を開始しました。これまでに、空き家を活用した民泊施設の運営支援、自然体験イベントの開催、ひとり親家庭への生活相談会などを実施し、地域住民との交流を深めてきました。

活動を通じて、地域の課題に対するニーズの高さと、継続的な支援体制の必要性を実感し、より安定した運営基盤を築くために法人化を検討。2025年9月30日に設立総会を開催し、特定非営利活動法人としての申請に至りました。

2025年9月30日

特定非営利活動法人 山県郷の和

設立代表者 氏名 菅原 華恋

設立当初の事業年度の事業計画書

法人成立の日から令和8年10月31日まで

特定非営利活動法人 山県郷の和

1 事業実施の方針

本法人は、地域の過疎化対策、空き家の利活用、子どもへの自然教育の推進、ひとり親家庭への支援を通じて、地域社会の持続的な発展と住民福祉の向上を目指す。設立初年度は、地域住民との信頼関係の構築と、事業基盤の整備を重点的に進める。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施予定日時 (B) 当該事業の 実施予定場所 (C) 従事者の 予定人数	(D) 受益対象 者の範囲 (E) 予定人数	事業 費の 予算 額 (単 位：千 円)
空き家・空き地の利活用を通じた地域資源の活用、景観の保全、安全・防犯環境の整備、及び移住促進に関する事業	空き家・空き地の状況を把握し、移住の促進をする。その事により景観の保全、安全、防犯、環境の整備を図る。	(A) 通年 (B) 岐阜県山県市 (C) 5人	(D) 地域住民、 移住希望者 (E) 30人	500
住宅宿泊事業法に基づく民泊事業の運営・支援、並びに民泊施設の企画・管理・利用促進に関する事業	山県ぷらっとホームに相談窓口及び説明カタログを用意し移住に伴う相談にのる、移住決定者に対して民泊運営を支援する。	(A) 通年 (B) 山県ぷらっとホーム (C) 2人	(D) 移住希望者 地域住民 (E) 20人	300

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施予定日時 (B) 当該事業の実施予定場所 (C) 従事者の予定人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 予定人数	事業費の 予算額 (単位：千円)
地域の観光資源・文化・自然環境を活かした体験型交流及び地域イベントの企画・運営に関する事業	季節に合わせ山菜取り 魚つかみ取り、川遊び 木工体験などのイベントや、地域で採れた野菜の朝市やマルシェの開催	(A) 月 1 回～2 回 (B) 山県ぷらっとホーム (C) 8 人	(D) 地域住民 小学生、保護者 移住希望者 (E) 各 20 人	300
行政・企業・金融機関等との連携による地域経済の活性化及び地域活動の推進に関する事業	移住や起業に対し、活用できる行政の補助金の資料作成支援や金融機関と協力し起業希望者向けの事業計画作成支援	(A) 通年 (B) 山県ぷらっとホーム (C) 3 人	(D) 起業希望者、 移住者 (E) 30 人	100
地域住民及び移住者を対象としたスポーツ・交流活動の推進に関する事業	地域住民と移住者によるスポーツチームを作りバレー・バトミントン・テニス・モルック等を開催し交流を図る	(A) 月 1 回 (B) 美山総合体育館 (C) 6 人	(D) 地域住民、 移住者 (E) 計 30 人	200
ひとり親家庭等の生活安定を図るための相談・研修・就労支援に関する事業	個別相談を定期的に実施。子育て、家計、住居、教育、就労など多岐にわたる課題に対応し、必要に応じて関係機関と連携をとったり同じ境遇の保護者同士が交流できる場を定期的に設け、孤立感の軽減と情報交換を促進する。	(A) 通年 (B) 山県ぷらっとホーム (C) 3 人	(D) ひとり親 (E) 20 人	0

令和8年度の事業計画書

令和8年11月1日から令和9年10月31日まで

特定非営利活動法人 山県郷の和

1 事業実施の方針

本法人は、地域の過疎化対策、空き家の利活用、子どもへの自然教育の推進、ひとり親家庭への支援を通じて、地域社会の持続的な発展と住民福祉の向上を目指す。令和8年度は、地域住民と移住者との信頼関係の構築と、事業基盤の整備を重点的に進める。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施予定日時 (B) 当該事業の 実施予定場所 (C) 従事者の 予定人数	(D) 受益対象 者の範囲 (E) 予定人数	事業 費の 予算 額 (単 位：千 円)
空き家・空き地の利活用を通じた地域資源の活用、景観の保全、安全・防犯環境の整備、及び移住促進に関する事業	空き家・空き地の状況を把握し、移住の促進をする。その事により景観の保全、安全、防犯、環境の整備を図る。	(A) 通年 (B) 岐阜県山県市 (C) 5人	(D) 地域住民、 移住希望者 (E) 30人	800
住宅宿泊事業法に基づく民泊事業の運営・支援、並びに民泊施設の企画・管理・利用促進に関する事業	山県ぷらっとホームに相談窓口及び説明カタログを用意し移住に伴う相談にのる、移住決定者に対して民泊運営を支援する。	(A) 通年 (B) 山県ぷらっとホーム (C) 2人	(D) 移住希望者 地域住民 (E) 20人	300

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施予定日時 (B) 当該事業の実施予定場所 (C) 従事者の予定人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 予定人数	事業費の 予算額 (単位：千円)
地域の観光資源・文化・自然環境を活かした体験型交流及び地域イベントの企画・運営に関する事業	季節に合わせ山菜取り 魚つかみ取り、川遊び 木工体験などのイベントや、地域で採れた野菜の朝市地やマルシェの開催	(A) 月 1 回～2 回 (B) 山県ぷらっとホーム (C) 8 人	(D) 地域住民 小学生、保護者 移住希望者 (E) 各 20 人	400
行政・企業・金融機関等との連携による地域経済の活性化及び地域活動の推進に関する事業	移住や起業に対し、活用できる行政の補助金の資料作成支援や金融機関と協力し起業希望者向けの事業計画作成支援	(A) 通年 (B) 山県ぷらっとホーム (C) 3 人	(D) 起業希望者、 移住者 (E) 30 人	100
地域住民及び移住者を対象としたスポーツ・交流活動の推進に関する事業	地域住民と移住者によるスポーツチームを作りバレー・バトミントン・テニス・モルック等を開催し交流を図る	(A) 月 1 回 (B) 美山総合体育館 (C) 6 人	(D) 地域住民、 移住者 (E) 計 30 人	300
ひとり親家庭等の生活安定を図るための相談・研修・就労支援に関する事業	個別相談を定期的に実施。子育て、家計、住居、教育、就労など多岐にわたる課題に対応し、必要に応じて関係機関と連携をとったり同じ境遇の保護者同士が交流できる場を定期的に設け、孤立感の軽減と情報交換を促進する。	(A) 通年 (B) 山県ぷらっとホーム (C) 3 人	(D) ひとり親 (E) 20 人	0

設立当初の事業年度 活動予算書

法人設立の日から令和8年 10月 31日まで

特定非営利活動法人 山県郷の和

(単位:円)

科目	金額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	840,000		
賛助会員受取会費	480,000		
.....		1,320,000	
2. 受取寄附金			
受取寄附金			
.....			
3. 受取助成金等			
受取民間助成金			
.....			
4. 事業収益			
民泊運営・支援事業収益	240,000		
.....		240,000	
5. その他収益			
受取利息			
雑収益			
.....			
経常収益計 (A)			1,560,000
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
役員報酬			
給料手当	500,000		
法定福利費			
.....			
人件費計	500,000		
(2) その他経費			
会議費	600,000		
旅費交通費	300,000		
減価償却費			
.....			
その他経費計	900,000		
事業費計		1,400,000	
2. 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬			
給料手当	100,000		
法定福利費			
.....			
人件費計	100,000		
(2) その他経費			
会議費	50,000		
旅費交通費			
減価償却費			
支払利息			
.....			
その他経費計	50,000		
管理費計		150,000	
経常費用計 (B)			1,550,000
当期経常増減額 (A) - (B)			10,000
III 経常外収益			
1. 固定資産売却益			
.....			
経常外収益計			
IV 経常外費用			
1. 過年度損益修正損			
.....			
経常外費用計			
税引前当期正味財産増減額			
法人税、住民税及び事業税			
当期正味財産増減額			10,000
設立時正味財産額			300,000
次期繰越正味財産額			310,000

令和8年度 活動予算書

令和8年11月1日から令和9年 10月 31日まで

特定非営利活動法人 山県郷の和

(単位：円)

科目	金額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	2,520,000		
賛助会員受取会費	480,000		
.....		3,000,000	
2. 受取寄附金			
受取寄附金			
.....			
3. 受取助成金等			
受取民間助成金			
.....			
4. 事業収益			
民泊運営・支援事業収益	480,000		
.....		480,000	
5. その他収益			
受取利息			
雑収益			
.....			
経常収益計 (A)			3,480,000
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
役員報酬			
給料手当	760,000		
法定福利費			
.....			
人件費計	760,000		
(2) その他経費			
会議費	600,000		
旅費交通費	540,000		
減価償却費			
.....			
その他経費計	1,140,000		
事業費計		1,900,000	
2. 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬			
給料手当	200,000		
法定福利費			
.....			
人件費計	200,000		
(2) その他経費			
会議費	360,000		
旅費交通費	180,000		
減価償却費			
支払利息			
.....			
その他経費計	540,000		
管理費計		740,000	
経常費用計 (B)			2,640,000
当期経常増減額 (A) - (B)			840,000
III 経常外収益			
1. 固定資産売却益			
.....			
経常外収益計			
IV 経常外費用			
1. 過年度損益修正損			
.....			
経常外費用計			
税引前当期正味財産増減額			
法人税、住民税及び事業税			
当期正味財産増減額			840,000
前期繰越正味財産額			310,000
次期繰越正味財産額			1,150,000